２０２２年度　学校関係者評価

設置者確認 2023年 3月24日 理事長 角田 修一 印

校務分掌	重点目標	具体的取り組み	A～C	自己評価	A～C	学校関係者評価
庶務課	業務内容を明文化し、新しい職員にもわかりやすいような体制をつくる	なるべくたくさんの職員が業務に関われるよう、マニュアル化できるものはして、新しい職員も安心して取り組めるようにし、仕事の偏りを減らしたい。今の業務内容を更に見直し、よりよく出来るよう整えていきたい。	B	業務の偏りについては、新しい職員も経験を積み上げてきてスムーズに準備に取りかかることが出来るよう徐々に改善されている。特に表彰については業務のマニュアル化も進められ、わかりやすくなってきたので、確認しながらではあるが、新しい職員もより主体的に取り組むことができるようになった。経験を重ねた職員が意識しないでやっていたことを明文化することにより、新しい気付きがあり、よりよくなるよう内容を付け足していくことができた。一方で、一年に一度しかない業務や事務室で扱っている業務は共有できていることが少ないので、他の職員も関われるよう工夫していきたい。	A	マニュアル化が進んでおり、今後人が入れ替わっても対応できるということであるので今後も継続してもらいたい。一年に一度の業務などは、終了後すぐに資料としてまとめると良いのではないか。目標を明確にし達成度などを指標として示してはどうか。本来事務が扱う仕事が滞っていないのであれば評価はＡで良いのではないか。客観的な意見があると評価しやすい。
教務課	新しい授業形態や学習環境及び学習教材の工夫。 学びの時間の確保。 基礎学力の定着。 魅力ある授業の構築。	ipadやリモコン、プロジェクターなど、授業に利用できる機材などの導入により幅広く授業形態を考え、より内容の深い授業の展開を目指す。 自宅学習の推奨や課題などの提示を含め生徒それぞれの学びへの向かい方を示す。 感染拡大防止策をとりながらも、行事などの体験的学習機会を確保する。併せて学校祭もできる限り縮小せずに行っていきたい。 特別タイムなどで他学年とも連携し、三年間を通じそれぞれの学年の段階を踏まえた基礎学力の向上を図りたい。 それぞれの授業を見学し合い、意見を伝え合ったり、指導を仰いだりできる機会を設け、より魅力的な授業が展開できるよう心がける。	B	自己評価のために各授業についてアンケートを行った。一部の授業ではipadやリモコン、プロジェクターの利用など積極的に行っている科目もあれば、うまく活用できていない科目もある。視覚的な情報を扱う科目については積極的な使用を試みている様子であった。また上記の機材以外にも教材を工夫している科目もあるようだった。また自宅学習や課題についても、範囲を明確にしチェックできるように工夫している科目もあれば、回収やチェックが徹底できていない科目もあった。行事等については今年度は感染拡大防止に留意しつつできる限り平常時に近づけたのではないか。特に三年生はコロナ禍での入学から行事活動の制限が顕著だったため、１月に希望制で卒業企画として宿泊行事を行い、生徒からも高評価を受けている。特別タイムでの活動は何度か教務課でも打ち合わせをしたが、年度中に各学年を通じた内容を決定するには至らなかった。新年度に向かい方向性を定めていきたい。研究授業等はなかなか行うことができなかった。新職員については必要に応じて指導や指導依頼があったが、それぞれの教員からの声かけや積極的な依頼がないと難しいように思う。また専門科目については授業時間が重なることが多いため、何らかの工夫をしないと見学することが難しい。授業だけに限らずＬＨＲやＳＨＲ、学年集会などよりよい授業づくりのための意見交換をしていきたい。合わせて授業よりも各校務や行事の仕事に比重を置きがちになっている現状を検討したいという声もあった。	A	ipadなどの情報機器は馴染みやすい科目とそうでない科目があると思う。また、使用する職員にも得手不得手があるかもしれない。情報処理等は積極的に取り入れていくと良い。現在御前崎市の小学校中学校は情報端末を生徒一人に一台提供し、グーグルワークスペースなどから教材を生徒自らダウンロードしていく。またタッチタイピングも１分間に８０字を目標にカリキュラムが組まれている。御前崎市は全国でも進んだ取り組みとされているが今後標準化していくことを想定して授業を検討していってはどうか。特別タイムは１５分でも積み上がると大きいと思う。島実の特色を生かし、学習面だけでなく一般教養やマナーなども学べるといいか。三年生でのスーツ講座やテーブルマナーは保護者としてはとてもありがたい。在学中にスーツを用意できるのも助かった。行事活動も含めて、コロナ禍での学校活動が活発に行えたようである。入学式の様子と卒業式の様子を映像で見せてもらえたが、生徒の変化成長が著しく思う。よってＡ判定ではどうか。
総務課	教員の仕事と事務の仕事を明確に分ける。 新理事評議員の依頼。	仕事の分担を明確にした上で危機管理マニュアルの作成など教員が進めなければいけない仕事にも着手していく。 長年理事評議員をやっていただいている方の負担を考慮し、次期候補者にお願いをしていく。	B	危機管理マニュアルは今年度は地震防災マニュアルをもととして使用した。学校校舎侵入者へに対する対応マニュアルなど今まで設定していない点などについても今後加えていく必要がある。 理事会評議員会については今年度末から来年度にかけて任期が満了になる方が多い。理事2名、監事1名、評議員4名の交替を予定している。県への報告など総務部長から経理部長（事務室）へ業務の移行は進んでいるが、安定した事務職員人数を確保しないとこれ以上の移行は難しい。	B	危機管理マニュアルが遅れながらでも作成中とのこと。今後いかに実践的に活用できるかが課題。不審者対応など年に１度でも行った方が良い。職員は自身の身と生徒の安全の両方を確保しなければならない。また制服がなく生徒が私服であるところや来客、近隣の住民の方など不審者との区別がしづらいところがある。保護者や学校関係者には来校時に名札を付けてもらう等工夫してもどうか。社会福祉協議会でもキントーンなどのクラウドシステムを活用し、先日の台風災害などでも有益であった。また防災キャンプを実施するなど実践的な訓練を行っている。本校でも検討してはどうか。
入試課	中学校のみでなく、適応指導教室や医療機関などとの繋がりをつくっていく。 学校説明で伝えている内容と実情の見直し。	在校生の利用している(利用していた)適応指導教室や医療機関のデータをまとめ、実際に連絡をとったり出向いたりし、情報交換をしながら関係を築いていく。 学校紹介の内容や発信している内容と、実情のギャップがないかどうか、全職員で真摯に向き合っていきたい。各職員が学校の在り方や目指している教育方針等を十分理解し実践できるよう働きかけていく。説明会などいろんな職員が経験し、改めて本校の特色や大事にしているものを意識していく。	B	教育機関への働きかけについて、学校案内の郵送や定期的な中学校訪問と併せての施設訪問などは今年度も引き続き行うことができた。しかし、密に情報交換をしたり、今まで足を運んだことのない病院への訪問は行うことができなかった。最近は中学からの紹介よりも、教育機関や病院からの紹介で本校を知る生徒も増えているため、情報交換の機会を作れるよう計画を立てていきたい。中学や訪問と併せて、本校での説明会の時期と入試への結びつきや、地域別の生徒数などさまざまなデータから、いつ・どのような情報を発信するべきかの分析をしていく必要もあった。 入学後、多くの生徒が穏やかに学校生活を送っている一方で、欠席が増え休学・退学を選択する生徒や、登校してはいるものの集団になじめていない生徒もいる。説明会で伝えている内容と、この一年間の生徒の表れや保護者からの言葉などとを照らし合わせていく必要があると感じた。説明会については、入試課職員で行うことがほとんどだったため、今後は入試課以外の職員も交代で参加できるよう計画していきたい。 今年度は入試時のミスがあり、中学校や生徒、保護者へご迷惑をおかけしてしまった。毎年のことでも、必ず職員全員で内容と流れを把握し、確認し合いながら準備を進めるようにしたい。	B	学校以外に出向いていき関係を作っているというのが良いのではないか。適応指導教室とのつながりが大事ではないか。小学校での放課後デイサービスなど中学校三年生だけで無く早い段階から島実の存在をアピールしてはどうか。在校生の作ったものを配布する等すると活動内容も周知できて良いのではないか。専修学校への正しい理解をされていない中学校の先生もいらっしゃるので改善を図りたい。卒業生保護者としては、中学校時にネット検索をしてもたどり着かなかった。現在でも通信制高校等が検索されて本校のホームページやフェイスブックにたどり着き辛い。中学生がよく使うＳＮＳを利用するのも良いのかもしれない。適応指導教室のみならず、保健室の養護教諭やスクールカウンセラー、ソーシャルワーカーなど現場で活動されている方に本校の教育内容や実業を直接知ってもらう方法を模索したい。
進路課	進路に関する情報をわかりやすく適切に提供する。 関係機関との協力・連携に力を入れる。	これまで予備教室２を中心に行っていた進路関係の情報の提供を、多目的ホールなど、より生徒が目にしやすく活用しやすい場所に移し、適切なタイミングで提供できるように心がける。 また手帳を持っている生徒など、本校のみで十分な対応をすることが難しいケースについては、早めに関係機関と連携をとると共に、関係機関に認知してもらうための働きかけを行う。	B	オープンキャンパスや学校説明会の日程を中心に、多目的ホールのパーティションに掲示するようにしたため、昨年度までよりも生徒が情報を確認しやすくなった。また、古い情報が残らないように定期的に掲示物の張替えを行うこともできた。しかし、学校案内やパンフレットなどについては古い資料が残ってしまっており、より一層の整理が必要である。関係機関との連携については、障害者就業・生活支援センター「ぽらんち」(志太・榛原)、「ラック」(中東遠)、就労移行支援事業所「はたらき」(袋井市)を利用して就労を目指している他、就労移行支援事業所「チャレンジドジャパン静岡センター」、「ウェルビー静岡駅前センター・静岡駅南センター」の担当者にも来校してもらい、情報交換を行うことができた。西部の関係機関との連携が弱いので広げていきたい。業界との繋がりについては、静岡県トラック協会の担当者と情報交換を行い、その後、定期的に業界紙を送付してもらっている。今後も関係を継続していきたい。	A	進学や就職など、名前や結果に目が行きがちだが、その子なりの進路をどう見据えていけたかが大事ではないか。卒業するだけでも本人にしてみればとても大切なこと。歩みの方法を獲得するというのも進路の一つだと思われる。生徒一人一人にとって満足度の高い社会参画が得られればよりよいのではないか。進路決定率７５％で昨年よりアップしているということも評価できる。
保健課	生徒の安心して過ごせる環境を整備し、心と身体の健康を守る。	安心して過ごせる環境を整える。季節に応じた情報を発信し健康づくりに役立ててもらう。長期化してきた新型コロナウイルス感染症拡大防止も、その時々の状況に応じて変化していくので、新しく正しい情報を継続して共有できるようにしたい。また心のケアも大切にしたい。	B	コロナウイルス感染においては学校内での拡大は起こらなかった。感染が拡大している時、落ち着いている時、その時毎に感染予防を見直し取り組めた。また、基本的な感染予防対策は継続的に続け定着した。事務室前の小黒板でも情報を発信したり、注意を呼びかけたりできた。コロナ以外では、生徒については大きな事故や怪我などはなくよかった。ただし、職員の体調不良や転倒による怪我があった。生徒、職員共に体調不良になった時に、安心できる環境を整えていきたい。校医や結核予防会（レントゲン撮影）への連絡は滞りなくできた。	A	コロナの状況も刻々と変化してきた。その都度対応も変更されている中で大きな問題なく過ごせたということはとてもよかった。職員の体調不良や転倒などもあったため、生徒だけでなく職員の健康管理も含めて学校全体の健康を維持できるような視点が持てると良い。身体的な面だけでなく心のケアも大切。松田先生のカウンセリングなどとても重要なことと思われる。
生活環境課	教室や相談室など、校内の各場所が快適で安心感の持てるあたたかな環境作りに努める。	教室の掲示物や整理整頓など、居心地の良い空間になるよう日頃から意識して整備をする。行事の写真や新聞や様々な言葉を紹介するなど、心が育まれるような、愛情を感じられる空間作りに努める。職員と生徒とで協力してより良い環境を作る意識を高め、行動出来るようにする。面談をする教室も、心地よく話が出来るよう乱雑にならないよう常に整理整頓をし、明るい雰囲気になるよう努める。面談技術の向上に努め、タイミングを逃さず対応する。クラスでの面談だけではなく、学年での対応や、理事長・校長面談、松田先生のカウンセリングなど、状態に応じて面談の在り方を判断し、継続的な支援が出来るようにする。校内の各場所も時々見直し、改善場所については計画的に整備する。	B	重点目標に基づく具体的取り組みがどうだったか、アンケートを取り、各クラスで自己評価を実施してもらった。整理整頓を日頃から意識しているクラスがほどんどであったものの、掲示物の作成やこまめな張り替えが充分に出来なかったと回答したクラスが多く課題がある。得意な職員がカバーしながら実践している学年もあったが、得意な職員に負担がいきすぎることのないよう、各自出来る形を工夫しながら、学年間で協力体制を取り整備を進めていく必要がある。行事写真については、どのクラスもその都度掲示が出来ていたようである。新聞や言葉の紹介などは弱かったと回答したクラスが多かったが、各自心を育まれるよう話題を考えながらHR活動を行っていることがうかがえた。生徒との連携は半分のクラスが十分出来ていたと回答し、残り半分は日直との連携が弱かった、一部の生徒が率先して動いてくれていた、と課題をあげていた。生徒がその空間を大事に感じ、率先して行動する姿勢を今後も育んでいきたい。面談の環境作りはほとんどの職員は整理整頓を実践し、問題なく実施できているようである。面談の技術や継続的な支援計画、実践については課題を感じているクラスが多かった。タイミングを逃したり、遅れがちになったりと、時期に関しての課題や、各クラスでの面談以外で、学年面談や、理事長・校長面談に適切に繋げられなかったといった課題があげられていた。今年度も、多くの生徒や保護者が松田先生のカウンセリングを受けさせていただき、生徒や保護者が気持ちを整理する場となったことは良かった。面談記録を全職員で確認し、生徒や保護者の理解に努めた。次年度へ引き継ぎながら継続した支援を行っていきたい。今後も面談技術の向上や、支援計画についてなど、職員間で密に話し合い、生徒たちの安心できる場と、心の環境を大切に育んでいきたい。校内の各所は計画的に整備が出来ていた。	A	物理的な環境と人間関係としての環境を考えた時、生徒の様子や全体会の雰囲気を見ているとほっとする環境なのではないかと思う。松田先生とのカウンセリングが単発で終わってしまう生徒も多く、担任の先生が対応されてるのかと思うが、経過などどうか知りたいとの声もある。必要な時に必要な支援をすべき。ただ子どもによっては医療やカウンセリングという言葉に抵抗を感じる場合や、相談そのものに抵抗を示す子もいる。当事者としては中学校時代から何度もそういった話をしてきつつあまり良い印象を持っていないこともあるのではないか。逆にカウンセリングがとても好きという生徒もいる。安心して何でも話せる相手がいるというのはとても有意義なこと。向き不向きを捉えつつ対応してほしい。また周りの人間が聞き手として成熟していけば生徒も安心して過ごしやすくなると思う。その点、本校は職員と生徒が安心して話ができる環境のように思われる。
管理課	職員･生徒の意識を高め日頃から生活環境の維持･改善に目を向ける。	定期的に管理課の打ち合わせをすることにより、チームで進めなければいけない作業を明確にして分担していく。総務課と連携して今年度修繕費の残高をしっかりと把握して、限られた予算を有効に使い、古くなった備品の刷新をしていく。	B	３ヶ月ごとに各職員にそれぞれの管理分担場所を点検してもらい集計する。その後管理課で対応をした箇所を一覧にいて点検結果を報告するという形をとった。12月の点検後は１、２月のその他の業務が重なり、管理課で集まり対策を共有することができなかった。修繕費の有効利用については今年度は校舎外壁塗装が主な修繕箇所になった。その他学校祭で使用した廃ペンキ処理、夜間感応式外部照明の取り付けを行なった。総務課との予算の残高についての確認は随時行うことができた。県から指示されているとおり３社から見積もりをとり発注に至った。また老朽化に伴い今後校内危険箇所になりそうなツリーハウスについても解体を行い撤去した。掃除分担については後期への移行などスムーズに行えた。３年生が掃除の前の挨拶や監督をすることによって主体性をもって作業することを意識し、学年を超えて交流する場となっている。	A	今年度危険箇所としてツリーハウスの解体を行ったとのことであるが、しかたないことかもしれないがさみしいような思いもあるのでまた再建できるとよいのではないか。南等の壁塗装についてとても綺麗になって良い。生徒が安全に生活できる環境を確保できているのであればＡでよいのではないか。